

頭部外傷による高次脳機能障害

～ 復学への取り組み～

言語聴覚課



頭部外傷で認められる 高次脳機能障害

認知障害

【記憶障害】【注意障害】【遂行機能障害】
【言語障害】【判断力、自己洞察力の低下】

社会的行動障害

【固執性】【感情のコントロール低下】
【欲求のコントロール低下】【依存症・退行】

なぜ問題か？

～ 見過ごされやすい障害 ～

周囲：障害があることが分かりにくい

本人：自覚が難しい

日常生活：それほど問題ない

社会生活：ミスやトラブルを生じやすい

「見えない障害」!

実際の事例

～ 軽度失語症者の電話対応場面 ～

ことばが浮かぶまでに時間がかかる
一度に多くの事を話されると処理困難
メモが追いつかない

電話は
スピードが
大事！

用件が分からない、伝えられない

評価が下がる！ 職を失う！ かも...

見過ごさないためには！

- ・ **現場**へ**実際**に出向いて**情報収集**
- ・ **社会生活**を共にする人々へ**説明**

**訓練室の中のリハビリ
では不十分**

事例紹介

症例：19歳、男性

診断名：急性硬膜下血腫、脳挫傷、外傷性てんかん、
術後創感染

現病歴：平成18年12月、バイクの転落事故にて受傷。
A病院搬送、緊急減圧開頭術施行。1月より
PT、OT、ST開始。4月6日の退院時には
軽度の右片麻痺、失語が残存。

4月中旬より当院(PT、OT、ST)と
B施設(OT、ST、心理)でのリハビリが開始。

実施した神経心理学的検査

高次脳機能全般: 浜松式高次脳機能スケール

言語機能: 標準失語症検査 (SLTA)

SLTA - ST (呼称)

WAB失語症検査

知的機能: WAIS、RCPM

注意機能: TMT

等

評価まとめ

神経心理学的検査

大部分の検査項目で**正常範囲内**の成績

より高度な能力を必要とする訓練場面

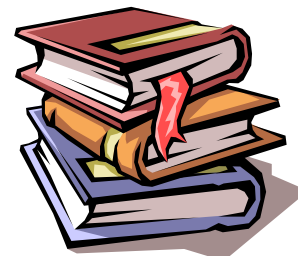
言語機能の低下、

情報処理速度の低下が疑われた。

リハ以外の復学への取組み

B施設

- ・大学側に報告書送付
- ・復学後の問題解決・対応策等の相談窓口



当院

- ・ST、OTが同行して大学の講義を体験

大学講義体験から 確かめられたもの・得られたもの

- ・ スケジュール・道順の計画・遂行可能
- ・ ノートを取る速度が遅いという課題
- ・ モチベーションの維持・向上
- ・ 復学への不安の軽減

確かめられなかったもの

- ・休講等の急な**変更時**の柔軟な対応
- ・**ゼミ等**の授業形式についていけるか
- ・様々な人間関係においても
感情のコントロールは可能か
- ・**論理的**なレポートが書けるか

復学支援のためのSTの視点

生活面

スケジュール
管理・調整

人間関係

修学面

聴覚的理解

論理的思考

論述能力